

2023 年度前期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	教育学部・第一類初等教育教員養成コース・3年
(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか	
<p>プログラム全体を通して、テーマであるダイバーシティやインクルーシブについてたくさん考えることができました。特に、印象に残っているのは宗教についてです。インドネシアで複数の宗教施設を訪問させていただき、日本での生活の中ではなかなか知ることの出来なかったことをたくさん学ぶことができ、とても良い経験となりました。くにごとの宗教観、その寛容性、それぞれの宗教を尊重する姿勢、生活と宗教のかかわりなど、その一つ一つが新鮮で、とても興味深かったです。また、宗教の話題の時に、「日本ではどうなの?」と聞かれるととても難しかったです。日本の一般的な宗教観や日本人と宗教の関わり、私と宗教とは、など、いろいろなことを考え、見つめ直す契機となったこともよかったです。普段なじみのない宗教についても、実際に見たりお話を聞いたりする中で、初めて学ぶことも多く、とても勉強になりました。偏見に気付かされたり、新しいことを知ったりする中で、それぞれの宗教について知ろうとすること、正しい知識をもつことの大切さを実感しました。このことが、多様性を尊重し、インクルーシブな社会をつくっていくうえでとても大切な姿勢だと思います。このように、プログラムでの学びから、宗教、さらには外国の生活、文化、教育制度など、幅広い分野に興味を持つことができたので、自分で調べたり、本を読んだりして、今後もグローバルな視点で学び続けたいと思っています。</p> <p>また、海外の学生さんとのコミュニケーションから多くの学びがありました。私はこれまであまり英語で話す機会がなかったので、スピーキング能力には自信ありませんでした。そのため、最初のころは緊張してあまり言葉も出ず、うなずいたり笑ったりしていただけでしたが、だんだん英語での会話に慣れてきて、どんどん積極的に英語を使った会話に挑戦することができたのでよかったです。完璧な英語を話そうとすることよりも、伝えたい、話したいという思いをもって、知っていることなかからとにかく話してみることが大事だということを学ぶことができました。日本でも海外の方と話す機会はいろいろあるところにあると思うので、積極的に交流していきたいです。また、この経験をモチベーションに、もっと自分の言いたいことが相手に伝わるように、より会話を楽しめるように、英語の勉強を頑張りたいと思います。</p>	
(2) プログラム内容についての全体的な感想	

見るもの、聞くもの、すべてが新鮮で、とても充実した学びの多い 2 週間でした。2 か国連続して行くことで学びが深まった部分があると思います。インドネシアを去ってすぐにタイに向かう時、寂しい気持ちを抱えたまま、また新しい出会いというのが少しつらかったですが、一日ジャカルタでの休養日もあり、新たな気持ちでまたスタートすることができました。2 か国続けて訪れることで、それぞれの国の特色や雰囲気をより感じることができました。また、インドネシアでたびたび見た、道路や街中で食べ物やティッシュなどを売っている人たちのことはとても印象に残っています。特に、ストリートフードを食べに行ったとき、何人も子どもたちがティッシュを買ってくれとわたしたちのテーブルのところに来た時にはいろいろなことを考え、複雑な気持ちになりました。あとで調べたことですが、彼らはストリートチルドレンと言うそうで、親が病気であったり、家庭が極度の貧困であったりするなどによって、その日の生活さえもままならず、自分で自分の食費を稼がなければならないというのです。日本ではあまり見ない光景に衝撃を受けるとともに、何とか世界中の子どもたちが幸せに生活できるようにはならないか、などいろいろなことに想いを馳せる機会となりました。また、私が教員を志望しているというもあり、各国の教育について大変興味を持ちました。インドネシアでもタイでも、教育関連の施設をたくさん見学させていただき、お話を聞くことができたのがとても興味深く、大変貴重な体験となりました。世界の教育制度や、学校の様子など調べて見たいと思います。また、人と人のあたたかなつながり、国境を越えた友情も学ぶことができました。私はこれまで外国人の友だちはできたことがなかったので、今回のプログラムで、たくさん友だちができてとてもうれしかったです。人と関わるができるところが、旅行とは違う、留学ならではの良さだと改めて思いました。彼らと、インスタグラムでつながることができたというのもおもしろいと思いました。SNS の中でもメッセージアプリは、それぞれの国で使っているものが違い、なかなか全員でつながることはできませんでしたが、インスタグラムは多くの国で使われており、つながることができたので、インスタグラムってすごいなと思いました。プログラムが終わってからも彼らとメッセージのやりとりなどもできていてうれしいです。良いご縁が続くことを祈っています。2 週間、インドネシアでもタイでも、いろんなところに連れて行ってもらい、いろんなものを食べて、たくさんお話できました。本当に行って良かったと思っています。ありがとうございました。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

生活面についての細かなこととしては、2 週間を過ごす中で特に大変だったのが、食事とトイレです。食事は、日本と根本的に異なる部分があるように感じ、胃腸に負担がかかっていたと思います。自分の好きな軽食や整腸剤を持っておくと安心だと思います。トイレについては、日本のトイレは改めて本当にきれいなのだと思わされました。というより多分きれいすぎるのだと思います。最初はなかなか抵抗がありましたが、だんだん慣れてきます。文化の違いでシャワーを使うため、トイレ全体が濡れていることも多く、トイレットペーパーはないことの方も多々あるので、ティッシュは多めに持って行くことをお勧めします。そのほかのことは基本的に心配ないと思います。次に、日本から持参するお土産についてです。私は何を持って行ったらよいのか、どれくらい持って行ったらよいのかわからず、とても悩みました。2 か国とも最後のお別れ会でお土産を渡す機会がありました。現地でお世話になった方に渡すので、1 か国 10 人分くらいはあった方がよいと思います。私は全員に配れるほどは持って行っていなかったので、特にお世話になった人にお土産を配り、みんなに折り紙にメッセージを書いて渡しました。(手紙はみんなに配れるのでよかったです、前日の夜が大変でした。) お土産としては、シールやペンなどの文房具、キーホルダーやブレスレットなども喜ばれると思います。折り紙だけを渡しても意外と使い道が分からないかもしれないので、折ってから渡してあげるか、一緒に折るために持って行くのが良いと思います。期間が 2 週間くらいあると、洗濯をすることになると思うので、洗濯の紐とハンガー、洗濯セット(洗剤と袋)は持って行った方が良いでしょう。コインランドリーに行ったり、クリーニングに出したりすることもできたのですが、毎日ではないし、靴下など小さなものは自分で洗った方が早かったです。最後に、2 週間はあっという間です!積極的に海外の学生さんと話すことで仲良くなり、充実したものになると思います。思いっきり楽しみつつ頑張ってください!

2023 年度前期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	法学部・昼間コース・2年
<p>(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか</p>	
<p>今回のプログラムに参加して日本にはない、様々な種類の多様性を実際に現地へ行くことで感じる事ができた。一番印象に残ったのは、イスラム教について詳しく知る機会がたくさんあったことだ。これまでヒジャブをつけている人たちに対して、抵抗感のようなもの感じることはなかったとはいえ、どこか私たちとは違うと区別して考えていたところがあったように思うが、イスラム教徒が多い国へ行き、日本で生活しているのとは反対に、自分がマイノリティ側になることで、そのような区別をせずに考えられるようになったと同時に、より深くイスラム教について学ぶことができた。また、イスラム教だけでなく、キリスト教や仏教など複数の宗教を信仰する人たちが、お互いの宗教について偏見を持つ前にその宗教について知り、そして認め合い、尊重しあうことによって、インドネシアは多様性の上に成り立っているのだと学んだ。また積極的に発言・行動することの大切さを学んだ。自分の意見を言ったり、自分から周囲の人に声をかけに行ったりしなければ、取り残されてしまうような空気感が私には新鮮で、様々なことに挑戦しようと思えた。実際、これまで講義などの質疑応答の時間に質問できたことがなかったが、今回のプログラムでは複数回挑戦することができ、少し成長できたように感じた。今後、この経験を活かして、今回学んだ宗教やジェンダーの問題以外にも、無意識にしてしまっている偏見や、持っているステレオタイプについてもっと意識的に焦点を当てて考えていきたい。お互いに無知であることが、理解しあえないことにつながっていると感じたので、まずは私自身が無意識の偏見やステレオタイプに気づき、知識を得るところから始めたいと思う。また、日本でも手にした一つ一つの縁や出会いを大切にしながら、自分から積極的に相手のことを知ろうと声をかけていきたいと思った。</p>	
<p>(2) プログラム内容についての全体的な感想</p>	

参加する前は、訪れたことのない国に行くことに対して、生活面や体調面、人間関係について不安な気持ちがあったが、このプログラムに参加する決断をして本当に良かったと思っています。東南アジアを訪れたのは初めてだったので、普段の生活や食生活など日本とは異なることがたくさんあり、初めは戸惑いもありましたが、一緒にプログラムに参加した友達とたくさん話ながら楽しい2週間を過ごすことができました。また普段の生活では得られない、英語を話す・聞く機会がたくさんあり、良い練習の機会になったのと、これからも語学の勉強を頑張りたいというモチベーションの向上につながりました。学校のプログラムで行かなければ、また現地の学生の助けがなければできなかったことがたくさんあったので、とても貴重な経験をすることができたと感じています。そして現地の学生と遊んだり、話したり、日本と現地との違いを共有したりするなど、たくさん交流することができたのも良い思い出です。ほんの一週間ずつではありましたが、別れるときはとても悲しく、たくさんおもてなしをしてくれたことに対して感謝の思いでいっぱいでした。反対に、日本に留学生が来る機会があれば、今度は私が今回の感謝の気持ちも込めて、広島や日本について紹介して良い時間を広大で過ごしてもらえるように支援したいと思います。そして今回あったたくさんの良い出会いを大切に今後も交流を続けていきたいです。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

START プログラムに携わってくださっている広島大学の先生やスタッフの方々をはじめ、現地の学生や先生方も本当に手厚くサポートして下さり、自分が個人的に海外へ行くだけでは経験できないことをたくさん経験することができるので、参加することをためらったり不安に思ったりせずに、ぜひ積極的にプログラムに参加して、大学生の間に貴重な経験をたくさん積んでください！